

.....

あずき洗いの話

.....



ある晩に、おばあさんが南の小路（みなみのしょうじ）にかかっとる橋を渡ろうとした途端に、橋の下から、

シャオ シャオ

シャオ シャオ

と小豆を洗う音がしてな。その音を聞いたとたんに、おばあさんは、ウーと、まるで首を絞められているようになって、

「苦しい、苦しい。助けて。」

と叫んだんよ。

しばらくして少し楽になったおばあさんは、家に帰ろうとしたんじやが、どうしても道が分からなくなり、行ったり来たりしよったら、夜が明けて、やあっと家に帰れたんと。

いったい、なにが起こったんか、不思議で不思議で、なんぼ考えても考えても分からず、たまらんようになって昼間におじいさんと橋の下をそうっとのぞきに行ったんじや。でも、なあんも変わったことはなかったんじや。

おそらく、あの音は、あずき洗いという妖怪が、あずきを洗いよった音じゃなかろうかということになった。昔はな、いろいろな妖怪がいっぱいおってな。皆に悪さをして困らせとったんよ。妖怪図鑑にはな、人間がおもしろがって川をのぞきよったら、水の中に落とすこともある妖怪じゃと、のっとるらしいんよ。

これであずき洗いの話はおしまいじゃ。

紙芝居「みんなでかたりつごう」（雄郡まちづくり協議会編 平成24年度制作）を、一部改作しました。